

■ケアプランデータ連携システム 直近の重要なトピックス

▷介護現場の生産性向上を目指す新たな取り組み

- ・厚生労働省老健局高齢者支援課は、介護現場の負担軽減と職場環境改善を目的に「ケアプランデータ連携システム」の活用を推進している。9月18日発行の最新情報によると、システムに関連する直近の重要なトピックスが発出された。

●ケアプランデータ連携システムトピックス まとめ（概要）

1. 第51回国際福祉機器展への出展

システムの理解促進を目的に、第51回国際福祉機器展に出展する。自治体や介護サービス事業所に対し、システムのデモや導入相談を通じて理解を深める機会を提供する予定である。

2. ヘルプデスクサポートサイトのリニューアル

利用者の不安を解消するため、システムの概要や導入に関する資料を充実させたサポートサイトがリニューアルされた。導入手順や運用方法を容易に理解できるよう設計されている。

3. ウェビナーの実施レポート公開

6月26日に開催された「ケアプランデータ連携システム活用ウェビナー“明日から実行したくなる！普及施策のヒント”」の実施レポートが公開された。セミナーでは、自治体や介護サービス事業所が具体的な普及施策のヒントを得られる内容が紹介され、多くの参加者から高評価を得た。

4. 介護予防サービスのデータ連携準備

「ケアプランデータ連携標準仕様」(V4)の改定により、介護予防サービス・支援計画書のデータ連携が可能になる準備が進んでいる。地域包括支援センターを中心に、より広範囲での利用が期待されている。

●今後の展望

システムの普及により、介護現場の業務効率化と生産性向上が進むと期待されている。しかし、さらなる導入推進には現場の理解と自治体の協力が必要不可欠である。厚生労働省では、システムの有効性を訴求するため、各地で説明会や相談会の実施を支援する方針を示している。

※詳細は下記の資料をご参照ください。

○介護保険最新情報 Vol.1310「ケアプランデータ連携システム 直近の重要なトピック」

(令和6年9月18日) 厚生労働省老健局高齢者支援課

<https://www.mhlw.go.jp/content/001307691.pdf>